今日のイラスト 297　「 イラストでたどる萩往還⑤　悴坂峠駕籠建場 」　　古谷眞之助

イラストでたどる萩往還 05　悴坂駕籠建場跡

文・イラスト＝古谷眞之助

萩往還沿いの施設の一つに御駕籠建場がある。文字通り駕籠を置く場所、すなわち駕籠を降ろして藩主らが休憩する場所である。萩から歩き始めて最初のものは、悴坂峠にあるそれである。萩往還には、この他に6カ所設けられていた。復元されているものは、ここ悴坂と一の坂駕籠建場の2カ所のみである。

イラストにある小屋の中に見える石に囲まれた二つのスペースが駕籠を降ろす場所。ちなみに、文献によると萩藩参勤交代のお供の最大人数は、1663人という記述がある。となれば、標高146㍍に過ぎない悴坂峠では、藩主が休憩する間、行列の最後尾はまだ峠に差し掛かってもいなかったことだろう。

唐樋札場
悴坂駕籠建場跡
萩
山口
英雲荘（三田尻御茶屋）
防府

標高 146m の悴坂峠（ かせがざかだお ）は、萩往還では最初の峠（ 峠 ）となる。峠（ たお ）とは峠の中国地方独特の呼び名である。個人的には小規模な峠を峠と呼ぶと思っているのだが、いかがなものだろうか。この峠には昭和 59 年萩市によって復元された駕籠建場があり、駕籠は建物の下に見える 2 か所の石組の上に降ろされた。これまた勝手な推測なのだが、駕籠を降ろす場所が 2 か所あるのは、不時に備えて予備の駕籠も運んでいたためではないかと思っている。そして、道を隔てた反対側には 22 坪程度の茶屋があり、ここで藩主らはしばし休憩した。茶屋の背後に水くみ場があったと言われているが、現在では見当たらないから枯渇したのだろう。本文にも書いているように萩藩の参勤交代の最大人数は 1,663 人（ 筆者の知る限り ）だったから、藩主がここで休んでいる頃、行列の最後尾は、まだ峠の登り口にも差し掛かってはいなかったと思われる。悴坂はそれほどの峠であり、萩を出発して初日の目的地山口まで、これから 3 つの峠を越えなくてはならないから、足慣らしにはちょうどよい峠と言えるだろう。萩藩では城下に至る 4 つの峠に「鉄砲停止御高札場」（ そこには「是ヨリ萩方諸狩猟停止」と書かれてあった ）を設けて、城下への鉄砲の持ち込みを禁止していた。悴坂はそのうちの一つである。江戸期の絵図「行程記」にも悴坂峠には「駕籠建場」「家屋」「鉄砲札」の印が記されているのが読み取れる。

明治 17 年、この峠に隧道が設けられた。長さ 200m 弱だが、当時としては立派な玄武岩の石積み構造で、国登録文化財に指定されている。萩往還をガイドしている際、お客様の中に「もう上りは御免」という方がおられれば、この隧道を通るのをお勧めしている。ただし、ガイドが二人の場合のみである。トンネル内にはもちろん照明はなく、200m だから大丈夫と思って歩き出すと中間地点辺りで真っ暗になって必ず怖い思いをするから、そうならないためにも、いつもザックの中には懐中電灯を入れている。そして峠には 1992 年に新しいトンネルが掘られて「萩有料道路」が開通してもっと便利になった。そのお陰で隧道を通る車両はなくなり、安心して歩けるようになったのである。因みにこの隧道は、悴坂ではなく「鹿背（ かせ ）隧道」と呼ばれている。ともあれ、この悴坂峠を下れば最初の宿駅・明木に至る。（ 2019.8.28 記 ）